

気象大学校講演会 2025

令和7年11月29日（土）午後
（午前中には学生サークルによる演奏会も開催）

会場：気象大学校講堂



※入場無料。事前の申し込みは不要です。

プログラム

開場 9時00分

午前の部（9時05分～12時00分）

■ 学生サークルによる演奏・パフォーマンス



午後の部（13時00分～17時00分）

■ 講演会

13:00～13:10 「気象大学校の魅力と学び ～気象大学校の紹介～」（蠣原弘一郎 教務課長）

13:10～13:40 「気象業務150周年 ～気象業務のこれまでとこれから～」（尾崎 友亮 校長）

13:40～14:10 「集中豪雨と線状降水帯」（加藤 輝之 教授）

（休憩）

14:30～15:00 「富士山が噴火したら」（加藤 幸司 講師）

15:00～15:30 「台風が温帯低気圧に変わるとき」（北畠 尚子 講師（気象大学校元教授））

（休憩）

15:50～16:50 特別講演「日本の南極観測の現状と気象庁の貢献」
（松原廣司 氏（元高層気象台長、第46次南極地域観測隊長））

その他、会場内で展示（気象大学校の紹介）もごさいます。
皆様お誘いあわせの上げひお越しく下さい。

※校内には食堂はありませんので、午前・午後とも参加される場合はご注意ください。

お問い合わせ 04-7144-7185（気象大学校）

松原 廣司 氏「日本の南極観測の現状と気象庁の貢献」

日本の南極観測70年の歩みと気象庁の貢献を紹介。オゾンホールや地球温暖化など、南極の気象・気候の現状と未来をわかりやすく解説します。

（講師略歴）

1947年 群馬県生まれ
1971年 気象大学校卒業。これ以後、気象庁で様々な業務に従事
1979年 第21次南極地域観測隊越冬隊員
1987年 第29次南極地域観測隊越冬隊員
2004年～2006年 第46次南極地域観測隊長
2007年4月 高層気象台長
2008年3月 気象庁退職

現在

- 一般財団法人 気象業務支援センター 専任主任技師
- 南極OB会 副会長



尾崎 友亮 校長

「気象業務150周年 ～気象業務のこれまでとこれから～」

明治8年に気象業務が始まってから今年で150年になります。その歴史を振り返るとともに今後に向けた取り組みについて紹介します。

加藤 輝之 教授（大雨の専門家）

「集中豪雨と線状降水帯」

防災用語として定着した「線状降水帯」、日本各地で発生する集中豪雨の大半の原因となっています。用語の由来から予測の難しさなどを解説します。

加藤 幸司 講師（火山の専門家）

「富士山が噴火したら」

富士山は活火山で、いつか噴火してもおかしくありません。富士山をとおして、火山監視や火山防災を解説します。

北畠 尚子 講師（低気圧の専門家）

「台風が温帯低気圧に変わるとき」

台風が温帯低気圧に変わるときに何が起こるのでしょうか。気象庁予報課や気象研究所などで約40年見てきたことを語ります。



JR常磐線・東武アーバンパークライン「柏駅」下車

■柏駅西口から徒歩約15分

■バスご利用の場合

柏駅西口1番のりば「免許センター・流山駅東口」行き（柏06系統）

または「免許センター」行き（柏16系統）

「気象大学前」下車

午前の部参加学生サークル

09:05～09:25 リコーダーアンサンブル（講堂）

09:30～10:30 軽音部（講堂）

10:35～10:55 リコーダーアンサンブル（階段前）

11:00～12:00 室内楽同好会（講堂）



気象大学校へのアクセス
（Googleマップ）



気象大学校講演会2025
（気象大学校HP）